

1

月

臨時議会ニュース

日本共産党県議団 です

両角友成議員の1月臨時議会の補正予算案に対する質疑と答弁の要旨を紹介します。全文はHPの[議会の様子](#)、動画は右QRからご覧いただけます。



* * 令和7年度1月補正予算案(752億円余)について * *

両角 部局によっては全額を繰越明許費とする予定もあると聞く。補正という性質上迅速に県民に届けたくても、規模や時間的制約もあり、各部局では予算は歓迎しても執行に相当な苦労が伴うのではと懸念するが、見解を伺う。

知事 業務量の負担が確かに増すが、業務のアウトソーシングも行う等、職員の負担にも配慮し経済対策としての効果を早期に具体化するように取り組んでいきたい。

両角 県産米の消費拡大や県産農畜産物の魅力発信・消費喚起など、地域を豊かにする消費行動の促進に向けての予算の具体的な事業内容を伺う。また、こうした取組と併せて、県産米や畜産の生産基盤をどのように守り、維持していくかにも、これまで以上に力点を置くべき。

農政部長 試食販売や、中食事業者等と生産者を直接結びつける商談会等、需要を喚起していく。これらの対策に併せて、地域農業を支える共同利用施設の再編・集約・合理化への支援や、機器の更新への支援などをお願いしている。引き続き、必要な対策を適時講じていく。

両角 県産材の利用促進や競争力強化のため、木材加工・流通施設や木質バイオマス利用促進施設の整備に2億900万円。しかし、県産カラマツが県外に流出しているという話をよく聞く。県内の利用促進についてどのように考えているのか。

林務部長 県外への丸太の供給を一定程度維持しつつ、県内の製材工場等で加工し、付加価値を高めた上で、県内外に供給することが重要。県内外でのさらなる利用促進に努めていく。

両角 宿泊事業者のDX支援事業の3億2,500万円が計上されている。人手不足対策や生産性向上の目的のことだが、事業規模はどの程度を想定しているのか。また、当初予算に続き支援を行っているが、今回の補正を含めると、必要とする宿泊事業者に対しどの程度整備が進むのか。

観光スポーツ部長 令和7年度当初予算によりDX投資に係る補助事業を実施し、209件の宿泊事業者が活用。要望もあり早期に事業者を支援するため、さらに約190者に対する予算を計上し、延べ約400者への支援を見込んでいる。宿泊事業者の一層の生産性向上に取り組む。

両角 直轄事業負担金として96億3,222万円。直轄事業(国が決定し実行する公共事業)は国の事業であり、地方財政法により、事業地の地方自治体が費用の一部を負担する義務は承知しているが、この時期にこの金額の追加負担は県にとって重荷ではないかと考える。後年度で処理されることはあるのか、今回の補正で予定される事業内容、そして直轄事業負担金に対する県の考え方を伺う。

建設部長 後年度処理は、支払期間の柔軟化等効果的な仕組みについて国に随時要望している。昨年度は、柔軟な対応に配慮いただいた。事業内容は、主に道路ネットワークの強化や流域治水対策、土砂災害対策。県土の骨格を成す施設の整備で、県民の安全・安心の確保や将来的な防災力の向上に直結する重要な事業と認識しており、県としても負担金の支出を含め、直轄事業の円滑な推進に協力していく。

※工業技術総合センターの支援体制強化についても、高額な機器購入のため質疑しました。

